

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693500015		
法人名	社会福祉法人 京都南山城会		
事業所名	グループホーム 涌出ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市山城町平尾里屋敷69番地4		
自己評価作成日	平成22年12月14日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693500015&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、『その人らしい暮らしの支援』を目標にしています。ご本人の持てる力を発揮し、生き生きと暮らしていただきたいという思いで、まずはお一人お一人を深く知り、その方に対する理解を深める事になりました。センター方式の24時間シートを使用して、その方の思いを探り、皆で話し合いながら、その方のライフサポートシート作りに取り組んでいるところです。一人一人に向き合い、チーム皆で語り合い、ライフサポートシート作りを重ねながら、少しずつ利用者さんの理解を深め、その人らしい暮らしに近づけていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能事業所と併設された当該ホームは、地域のお祭り等に企画から積極的に参加したり、ホームの避難訓練の案内を回覧板にて、地域住民に周知し多くの方に参加してもらったり、ホームの存在や認知症を理解してもらえようホームの一角に喫茶店を設け、気軽に訪ねてもらえるように、地域との繋がりを大切に積極的に取り組んでいます。また、職員は毎年の目標や理念に基づいたケアが出来るように、利用者一人ひとりに寄り添い利用者本位の生活を目指しており、職員の気づきを詳細に記録に残し、日々のケアに活かされています。また、年数を重ねる事で少しずつ重度化がみられてきましたが、ホームだけで過ごす事のないよう地域との関わりを持ちながら出来る事に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「一人一人の尊厳を守り、やさしく、あたたかく、わかりやすい介護」という理念とし、利用者一人一人の暮らし方を大切にケアを機会あるごとに皆で確認し合い、日々の実践に活かされるよう努めている。	法人の介護方針や今年度の目標を作り毎月の職員会議で話し合い、年度末には職員アンケートを取り次年度に繋げられるように取り組んでいます。開設時に利用者と職員が話し合いホームに対する思いをまとめた利用者直筆の言葉をリビングに掲げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(敬老会、学校行事への参加、地域の夏祭りなど)には積極的に参加している。地域の子供会主催のラジオ体操の場所を提供、利用者も参加し、交流の場となっている。また地域の方にも呼びかけ、もちつきを楽しんでいただいたり、今年度は避難訓練を実施計画をしている。	自治会には加入していませんが、地域の役員の訪問があったり、神社のまつりには企画の段階から参加して屋台を出すなど、地域と共に取り組んでいます。また町の作品展に出品したりボランティアに習字を教えてもらったり、課外授業の一環で小学生の訪問がある等、多くの方と交流する機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協主催の介護者交流事業で施設見学の場の提供をしている。地域ケア会議において2月にシンポジウムを行う予定がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催している。昨年度からも話にでていた地域の方々も参加してもらっての避難訓練を今年度、実施することとなった。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では利用者状況や前回からの経過、事故報告、消防訓練等について報告しています。市の要望や問い合わせ等参加者からも多くの意見があり有意義な場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には高齢介護課の課長に参加していただいている。また昨年度から包括支援センターの職員の方にも参加していただいている。	運営推進会議への市の担当者の参加もあり議事録も送付しています。市から相談される事もありなじみの関係が構築されつつあり、市の担当者が来訪されたり、ホームから働きかけをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護方針でもあり、拘束をしない介護を職員は正しく理解し、実践している。身体拘束委員会にて基本の11項目と法人独自の1項目で身体拘束ゼロの取り組みをしている。定期的にアンケートを実施、日々のケアを振り返る機会を設けている。玄関の施錠は、夜間のみ、防犯上、施錠しているが、日中は個々の行動特性を理解し、見守りを行っている。	身体拘束委員会にて年に3回アンケートを取り日々の関わりの中で気になる事がないか確認をし合っています。また法人全体で年1回身体拘束についての寸劇を行うなど職員の理解を深めるために取り組んでいます。玄関の鍵は施錠せずセンサーで対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、身体拘束委員会や職員会議等で考える機会があり、日常のケアの中でも小さな傷やあざも見逃さないようにしており、決して虐待がない様、職員全体が周知し、努めている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、介護支援専門員の資格を持っているものは、知識としてあると思うが、他の職員の学習する機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、細かく説明し、家族の不安や疑問点などがあれば、わかりやすく、納得がいくように説明をしている。質問しやすい雰囲気を作れるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。意見箱には投書はないが、利用者の希望や困っていることや日常の中でできるだけ把握するよう心がけている。年1回、満足度調査も実施、またケアプラン更新時など、ご利用者、ご家族の思いを聞かせていただく機会もあり、その意見をケアに反映している。	来訪時やホームの行事、家族会、運営推進会議等には多くの家族参加があり、その都度、意見や要望がないか聞いています。意見等があればその都度、改善策を伝えています。また、年に1回満足度調査を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見を言い合い、話し合っている。またその都度、意見を聞く機会を持っている。	毎月の職員会議で何でも話ができるように取り組んでいます。年に2回自己評価表を提出し、総合施設長や管理者との面談があり、思いや希望が気軽に言える場を設け、個々の意見がケアに活かせるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに個々の目標をたてて、それに対して施設長との面談し、自分自身を振り返る機会を持つ事が出来ている。年2回、個々による自己評価のうえ、上司による評価、また評価後、総合施設長による個人面談も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員に合わせ、施設内外の研修を実施している。また職員が受けたい研修を積極的に受け入れるような環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々には施設外研修において同業者の方々と交流する機会はある。法人内の委員会活動や勉強会へ参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に特に関わりを多く持ち、ゆっくりとお話できるようにしている。さりげないコミュニケーションの中でご本人の思いや希望を感じ、しっかりと受け止めるようにし、安心感を持っていただけるよう、また不安を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所の申し込みの時点から何でも相談していただけるような雰囲気作りを心がけている。ご家族とのコミュニケーションを大切にして来設時には、近況報告など積極的に話をするよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかりと把握し、その方に適したサービスを紹介したり、様々なサービスの情報を提供し、選択肢を増やす対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来そうな事はどんどんやっていただけるような関わりを持てるよう努めている。日々の関わりの中で家事等、いろいろな作業を通して学ばせていただく事も多く、共に生活する中でコミュニケーションを深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、来設時などを通じて家族様とのコミュニケーションを深めている。つきに1回のご家族への手紙を利用し、御利用者の様子を報告、小さなことでも常に連絡をとり、相談しながら支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人などいつでも来ていただけるようにしており、良い関係が持続できるよう支援している。ご家族と協力しながら、ご本人の馴染みの方や場所への関係を途切れないような支援を心がけている。	今まで住んでいた近所の方や知人の来訪があります。行きつけの美容院への送迎や、今まで住んでいた馴染みの場所へドライブするなど、関係が途切れないような支援に心がけています。また、ホームから毎年、市の敬老会に出かけ市長から表彰されるのを楽しみにされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の利用者がその人らしく暮らせるよう、なおかつ、共に生活しているもの同士、助け合い、支えあっていけるよう、職員も間に入り、援助をしている。日々の中で利用者さん同士が互いに助け合っておられる場面も多く見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了になっても気軽な相談窓口としての役割が果たせるよう、心がけている。以前利用された家族がボランティアに来て下さる関係も続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度はライフサポートシートの作成に取り組み、全職員で24時間シートを記入し、それらを元に各担当がお1人ひとりの思いも聞きながら、その方の暮らしのプランを作り、カンファレンスを行い、検討している。	入居前には利用者や家族から多くの情報をもたらしています。入居後は、利用者と一緒に生活する中で表情やしぐさ、利用者の立場になって思いを汲み取りながら、希望や意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、アセスメントを行っている。入所後もご本人やご家族と話しながら、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを元にライフサポートシート作成を各担当者が行っている。日々の身体状態については、看護師が毎日、利用者の方とお話し、健康状態を把握し、健康管理に努めている。またそれを日誌につけ、皆が情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によるアセスメント、ライフサポートシートに基づき、カンファレンスを開き、チーム全体で話し合っている。そのカンファレンスの元に介護計画をケアマネが作成している。	日頃から利用者や家族から希望等を聞きながら情報を集約したライフサポートシートを基に全職員の意見を取り入れたカンファレンスを開催し、ケアプラン作成しています。見直しは認定期間としていますが、ケアプラン行動実施表や毎日の記録、月に1回の評価を行い変化があればその都度見直ししています。また、必要があれば医師や職員でもある看護師からの意見も取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間とも日々、記録して情報の共有を図っている。また必要に応じて食事、水分摂取量、24時間シートを使ったりしながら、その時々に必要な情報を記録して日々のケアに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用の要望のあった食べ物を食べにいく等、また行きつけの美容室へ行かれたり、家族の状況に応じ、職員が通院介助と一緒にいたりしている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんにボランティアで毎月、書道を教えていただいている。社共主催の地域の祭りに日頃、みんなで作っている作品を出品している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者、御家族が希望される医療機関を受診されている。体調の変化があった時には、主治医に連絡を取り、往診に来ていただき、指示を仰いでいる。	入居時にかかりつけ医の継続が出来る事を説明しており、ほとんどの利用者は今までのかかりつけ医を継続されています。かかりつけ医の往診が月に1回あり、電話にて指示やアドバイスがもらえるような連携も取れています。歯科は必要があれば訪問も可能で、職員でもある看護師が日々の健康管理を行い安心できる体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師を配置しており、すぐに相談できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連絡室と連絡を取り、情報交換を行い、早期退院ができるような対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の方針としてターミナルもみていくことは職員に伝えられている。現在もターミナル対応の方が1名おられる。重度化され終末期を迎えられるにあたり、その人らしく生活して頂ける様、ご家族とも話し合いを持ち、主治医、職員で話し合いの場を持ち、日々、その方に関わっている。	ホームの方針を重要事項説明書に記載し、入居時に説明しています。家族の希望があればかかりつけ医や家族、職員が何度も話し合いを持ち、ホームとしての体制も整えながら安心して過ごせるように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置し、職員会議などで定期的に研修する機会を設けている。また法人で、救命救急の講習に順番に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもとで、避難訓練を行なっている。今回、初めてだが、地域の方々にも呼びかけ、避難訓練を実施した。	年に2回、消防署立ち会いの下、夜間想定で避難訓練を行っています。運営推進会議で地域からの協力の必要性について話し、組長より回覧板にて周知し、多くの方の参加がありました。地域住民と一緒に消火器の使い方や地震体験車を用いて訓練を実施し協力体制を築くよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あたたかく、親しみのある会話を大切に して、常に利用者1人1人の人格を尊重し、自 尊心を傷つけるような言葉かけや対応にな らないよう心がけている。	研修やカンファレンスでプライバシーを損ね ない対応について話し合っています。馴れ馴 れしい対応や言葉遣いが見られた時には会 議で問いかけ場面に応じた対応が出来るよ うに、常に改善していこうという気持ちを忘 れないように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望が出せるよう な雰囲気作り、また思いをうまく伝えられ ない方の思いを汲み取れるよう、引き出せ るような対応ができ、自己決定を支援し、尊重 できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、お一人ひとりの生活が充実できるようにプ ライベートを大切に、また共にする掃除や身体 状態、季節、天候に合わせて、外出の機会やレ クへの参加も本人の希望を聞きながら参加し てもらい楽しんでいただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	起床時の整容など利用者個々がされている。で きない方には、声かけ、その都度、確認をとりな がら一緒に準備させていただいている。普段の 衣類は自分で選ばれているが、旅行など外出着 にご家族がおしゃれできるよう準備して下さっ ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	個々の出来る事ことを知り、一緒に行えるよ うにしている。また献立もご利用者の希望 等もできるだけ取り入れよう努めている。配 膳、下膳、食器洗い等も職員と共に会話し ながら役割をもって行っていただけている。	昼食は食材屋から配達する献立ですが、朝食と 夕食は担当職員が献立を考え職員でもある管理 栄養士がチェックしています。毎日利用者とい っしょに買い物に出かけ配膳や下膳、米とぎ、野菜の 下準備なども共にしています。行事に合わせて鍋 料理や寿司バイキング、外食等も取り入れ楽し みなものとなっています。また、職員も同じ物を頂き 利用者と会話をしながら楽しい食事時間を過 しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下で献立は立てている。ケ アプランに基づいてその方に合った食事(量・刻 みなど)を提供している。食事量、水分量の少 ない方にはチェック表を作成し、職員が共有し て意識をもって関わられるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	声かけ、見守り、一部介助等、個々の利用 者に合わせて対応し、毎食後口腔ケアを行 なっている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を把握し、個々に合わせたケアを行ないながら、羞恥心に配慮した声かけや誘導を行うようにしている。できるだけ、トイレでの排泄を支援している。	排泄表を利用しながら誘導や利用者のペースに合わせた声かけをしています。利用者の状況に応じて夜間のみ睡眠を妨げないようにおむつを利用している方もいますが、日中は布パンツやパッドを使いながらトイレで排泄が出来るように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかりと水分を摂っていただけるように、また毎日、体操の時間をもったりと運動する機会をもち、便秘予防に努めている。排便困難な方には、こまめな水分補給とともにヨーグルトやバナナ、また繊維の多い食物等を食べていただくようにしたりしています。また主治医ともそうだし、薬の調整もしていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に隔日に入浴していただいています。時間等、ご本人の希望に応じて入浴していただいています。嫌がられるときには、無理強いせず、時間を置いたり、また異性職員の拒否等ある場合に同性職員に交代するなど、その都度対応している。	毎日、昼食後から4時頃まで準備しています。1日おきにゆっくりと入ってもらい、希望があれば毎日の入浴も可能です。季節に応じた柚子風呂や菖蒲湯など楽しみとなっています。また、拒否傾向の利用者には声かけをする職員が交代する等の工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、薬に頼らず眠れるよう、日中に活動していただけるように心がけている。ご本人のペースで休みたい時に自由に部屋に戻り、休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により服薬の準備をし、薬の効能等、把握している。またその情報についても薬の管理表を作り、職員も共有している。日々の状態は看護師により確認、服薬の内容の変化があれば、口頭での申し送りと医療日誌で皆が共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできること、できないことを見極め、日々の生活での役割(食事作り・掃除など)をもっといただけている。また月ごとの行事やレクリエーション、散歩、外出等、楽しみとなるようなことも多く持てるよう、努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々にあった外出に努めたいと思いがながら、充分には行えていない。買い物も毎日あるが、いける方が決まっている。日常で近くの神社まで散歩に出かけたり、誕生日をかねて外食したりする機会はある。年1回、日帰り旅行でご家族と一緒に出かけられる機会を持っている。	毎日、食材の買い物に出かけています。散歩や神社まで出かけた後、併設されている小規模多機能事業所が外出する時に一緒に出かける事もあります。また、年に1回家族と一緒に日帰り旅行に出かけています。年数を重ねる事で重度化が進んでしまいましたが、ホーム前にお茶の時間を持ったり、庭を散歩したり、出来るだけホームの中で過ごす事のないように取り組んでいます。	

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度、自分で持っておられる方もありますが、ほとんどの方は現金を持っておられない。買い物に同行した時か、買いたいものがあれば、立替払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をこまめに書かれる方は、駅前のポストまで一緒に投函している。毎週、ご家族からの絵葉書が届く方もおられ、毎回、それを職員と一緒に読みながら、喜んで見ておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごしていただけるよう、温度、湿度に配慮している。玄関、共有スペースなどには季節の花を飾り、皆さんの手作りのカレンダーなどもある。また畑には利用者、職員で植えた季節の花や野菜が見れ、中からそれらの成長の様子を見れるようになっている。	リビングは明るく太陽の光が多く差し込み、暖かい色の照明を使う事で落ち着いた空間となっています。手作りの大きなカレンダーが出迎えてくれ、観葉植物や利用者が書かれた習字などを飾っています。また、廊下には椅子を置きひと休みしたり、玄関には洗面台やベンチが設置され、外出から帰ってきた時の手洗いや座って靴が履けるような工夫をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファもあり、それぞれが居心地の良い場所で過ごされている。もっとそれぞれの方が居心地よく過ごせる空間を考えていきたいという思いで、空間作りの委員会を立ち上げ、現在取り組んでいるところである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に使い慣れたものをもってきていただけるようお話しているが、持ってこられる方は少なく、新しいものを購入し、準備されることが多いです。	洗面台とベッドがホームから用意されています。布団やタンス、テレビ、ソファ、ぬいぐるみ、大切にされていた仏壇など家族と相談しながら持ち込んでもらっています。また、入居時にはホームから一軒の家として木の表札を用意し居室入り口にかけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札、トイレにはさくらの花のしるしをつけて、一人一人の状況に応じ、声かけを行い、混乱のないように努めています。フロア内は、手すりをつけ、玄関はバリアフリーとなっています。		